



中学校区に分かれ、情報交換及び意見交換をしました。

2月16日(金) 沖縄市福祉文化プラザにて、沖縄市社会福祉協議会主催、令和5年度沖縄市ふれあいのまちづくり事業「小地域ネットワーク事業」実践報告会」が行われました。はじめに、沖縄市介護保険課 地域支援担当より『高齢者の日常生活における移動手段に関するアンケート調査』についての報告があり、続いて『要支援者等の移動支援について 先進地の事例を通して学ぶ』実践報告がありました。

高齢者等の移動支援について考える！

報告会の目的は、移動と外出支援において、身近な乗り合い、移動のお手伝い、新しい支え合いを考えること。移動支援についての考え方や実際の取り組みを学びました。今後、それぞれの地域(各自治会)へ内容を報告し、その地域にあった移動支援を話し合い、考えていきたいと思っています。

- 実践報告については、
- 1、先進地の要支援者等の移動・外出支援の取り組み
 - 2、那覇市での取り組み
 - 3、沖縄市内の移動支援・外出支援の取り組み
- ① 松本デイサービスセンター
 - ② 泡瀬第三自治会の取り組み
- が報告されました。



進行：田中将太氏
琉球大学 人文社会学部
(社会福祉士・精神保健福祉士)

～令和5年度 沖縄市キャラバンメイト連絡会～

講演会「仲間と共に生きる 認知症本人です」

令和6年2月14日(水) 沖縄市社会福祉センターにて沖縄市役所介護保険課主催キャラバンメイト連絡会が開催されました。講演会では大城勝史さん(沖縄県認知症希望大使：令和5年9月任命)による講演があり、若年性認知症と診断されるまでの経過や、診断後の気持ち、普段の過ごし方、これから挑戦したいこと等、たくさんのお話を聴くことができました。

Q. 初めて若年性認知症と診断された時の気持ちは？

大城：ショックでした……。営業職に戻れないんだな。と自信を失いました。

Q. 若年性認知症になる前に違和感がありましたか？

大城：人の名前と顔を覚えられない。道に迷うようになった。車を駐車した場所を忘れることなどがありました。

Q. 一番辛かった出来事を教えてください。

大城：自動車運転免許の返納です。高校卒業後から車が好きでした。免許を返納することは自分の一部を持っていかれるようで……。辛かった。一歩踏み出すことができずじっくり考えました。

安次富：高齢者の自動車免許返納後のサービスはあるけど、若年性認知症のサービスはありません。訴え続けて制度を作らなければなりません！！



写真右：大城勝史さん
写真左：安次富麻紀さん
(沖縄県若年性認知症コーディネーター)

沖縄県若年性認知症相談窓口 新オレンジサポート室

設置場所：沖縄県宜野湾市
相談時間：月～金 9:00～17:00
(新規相談：10:00～15:00)
相談方法：電話・メール・来所・訪問
※予約制で相談対応
若年性認知症支援コーディネーター1名

Q. 生活の中で工夫していることを教えてください。

- 大城：記憶より記録！
- ・メモリーノートの活用
 - ・写真の地図作成(バス停～会社)
 - ・2つのホワイトボードでスケジュール管理
 - ・ボイスメモを活用しています！

Q.これから挑戦したいことは？

大城：若年性認知症に対する偏見、誤解をなくしたい！！

Q. 最後に皆さんにメッセージをお願いします。

大城：診断された本人も、家族も一人で悩まないで、相談してほしい。今はたくさんのサポート、支援体制があります。僕の経験が役に立つならこれからも語りたいです。たくさんの支え、繋がりがあから生きていけます。



宮城島 あごーりば食堂へ視察研修！

2/8（木）南桃原自治会の視察研修へ参加しました。場所は宮城島（うるま市与那城）にある地域食堂。宮城島には4つ集落（桃原・上原・宮城・池味）があり、人口減少、高齢者の一人暮らしの方が増え、自治会行事に参加できなくなっている現状がある。そこで、4自治会合同で昨年6月より月1回（第3木曜日）の地域食堂が開始されました。2つの食堂で交互に、ボランティアで運営。今では地域の方からの食材提供もあるそうです。200円のお弁当を50食提供。島の方々の居場所づくり・他者との交流を目的として食堂まで歩いて来られる方もいるが、一人暮らしの高齢者宅へ声かけ・見守りを目的とした配達も多いとのこと。



50食限定！
200円♪
モットーは継続！



島内を散策しながらあごーりば食堂まで歩いて移動。場所を移して昼食。うるマルシェで買い物と、南桃原の方々の活気ある姿を見ることができました。

「あごーりば」とは「お召し上がりください」という宮城島の方言だそうです。



2/6（火）のゲストは、ショッピングリハビリの職員（理学療法士）の我如古純也さん（写真右から2番目）、比嘉愛華さん（写真右から3番目）。買い物難民の問題に対応するため、デイサービス事業を開始し、今後はボランティアにて地域の買い物に特化した移動支援も実施するとのことがありました。



2/20（火）のゲストは、地域包括西部南にて実習中の名若心愛さん（写真右から2番目）、金城和葉さん（写真右から3番目）。実習で感じたこと、社会福祉士・精神保健福祉士を目指すきっかけなどを話してもらいました。二人とも「大学での学びが実習する中でつながって行くのが楽しい。」と話していました。